

1. 化学品及び会社情報

製品名 インクボトル, WH, 1000ML

製品コード T49V9 / SC24WW

化学薬品の推奨用途および使用制限

化学名又は一般名・用途 インクジェット用インキ (UV硬化型)

安全データシートの提供者の詳細

輸入者/供給者

エプソン販売株式会社
東京都新宿区新宿四丁目1番6号 JR新宿ミライナタワー29階
電話番号: 03(5919)5211(代表)

セイコーエプソン株式会社
長野県塩尻市広丘原新田80番地

緊急連絡電話番号 03(5919)5211(代表)

2. 危険有害性の要約

化学物質または混合物の分類

急性毒性 (経口)	区分 4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 1
皮膚感作性	区分 1A
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 肝臓 呼吸器系 区分 2
水生環境有害性 (慢性)	区分 3

ラベル要素

シンボル/絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- H302 - 飲み込むと有害
- H315 - 皮膚刺激
- H317 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H318 - 重篤な眼の損傷
- H361 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- H372 - 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

H412 - 長期継続的影響によって水生生物に有害

長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じる： 肝臓、 呼吸器系。

長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じるおそれ： .

注意書き - 安全対策 (予防策)

- 使用前に取扱説明書を入手すること
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
- 取り扱い後はよく手を洗うこと
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと
- 環境への放出を避けること

注意書き - 応急措置 (対応)

- 暴露または暴露の懸念のある場合：医師の診断/手当てを受けること
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ただちに医師に連絡すること
- 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること
- 気分が悪い時は医師に連絡すること
- 口をすすぐこと

注意書き - 保管 (貯蔵)

- 施錠して保管すること

注意書き - 廃棄

- 適用法令に従い内容物/容器を廃棄すること

3. 組成及び成分情報

化学物質または混合物 混合物

慣用名 インクジェット用インキ (UV硬化型)

GHS分類寄与成分等

化学物質名	化審法番号	安衛法番号	CAS番号	重量%
アクリル酸ベンジル	(3)-2873, (3)-1017	-	2495-35-4	30-40
モルホリン, 4-(1-オキソ-2-プロペニル)-	(5)-865	-	5117-12-4	10-20
酸化チタン(IV)	(5)-5225, (1)-558	-	13463-67-7	10-20
2H-アゼピン-2-オン, 1-エテニルヘキサヒドロ-	(5)-6239	8-(1)-2044	2235-00-9	10-20
ジフェニル-2, 4, 6-トリメチルベンゾイルホスフィン=オキシド	(3)-4078	4-(3)-48	75980-60-8	10-20
アクリル酸2-(2-エトキシエト	(2)-3106	-	7328-17-8	5-10

キシ)エチル				
--------	--	--	--	--

労働安全衛生法			
規制区分名	法文物質名	政令番号	重量%
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)	酸化チタン (I V)	191	10-20

4. 応急措置

一般的なアドバイス

直ちに医師の手当てを受ける必要がある
 症状が続く場合には、医師に連絡すること
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと
 眼、皮膚、衣類につけないこと
 アレルギー性反応を引き起こすおそれがある

吸入

空気の新鮮な場所に移すこと
 皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること
 直ちに医師の診断/手当てを受けること
 呼吸が不規則になった場合または停止した場合には、人工呼吸を施すこと
 事故により蒸気を吸入した場合には、空気の新鮮な場所に移すこと
 症状が続く場合には、医師に連絡すること
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
 吸入した場合：気分が悪いときは毒物センターまたは医師に連絡すること

皮膚に付着した場合

直ちに医師の手当てを受ける必要がある
 汚染された衣服と靴を脱ぎ、直ちに石鹼と多量の水で洗い流すこと
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること
 直ちに石鹼と多量の水で洗うこと
 炎症が続く場合は、医師に連絡すること
 刺激が生じて長引くときは、医師の手当てをうけること

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。最初の洗浄後、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分間は洗浄しつづけること
 洗っている間、目を大きく開くこと
 直ちに医師に連絡すること
 少なくとも15分間、まぶたの裏側まで多量の水で洗うこと
 症状が続く場合には、医師に連絡すること
 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること

経口

無理に吐かせないこと
 水で口内をすすいだ後、多量の水を飲むこと
 意識のない者には、何も口から与えてはならない
 直ちに医師または毒物センターに連絡すること
 医師に連絡すること
 飲み込んだ場合に吸入する可能性

	医師の手当てを受けること 口を水ですすぐ
応急処置を行う者本人の保護	セクション8で推奨されている個人用保護具を着用すること 皮膚、眼または衣類との接触を避けること
医師に対する注意事項	敏感な人は感作を引き起こすことがある 症状に応じて治療すること

5. 火災時の措置

引火性の特性	消火後に再点火するおそれ 引火性/可燃性物質
適切な消火剤	二酸化炭素、粉末消火剤、乾いた砂、耐アルコールフォーム、霧状の強化液 リスクを伴わずに行えるのであれば、容器を火災区域から移動させること 現地の状況および周囲環境に適した消火方法を用いること 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと
使ってはならない消火剤	火災を広げるおそれがあるので、棒状水を使用しないこと
化学物質または混合物から生じる特有の危険有害性	火災および/または爆発時には、ヒュームを吸い込まないこと 吸入および皮膚接触により感作を引き起こすことがある 熱分解すると刺激性かつ毒性のガスおよび蒸気を放出することがある 本製品は目、皮膚、および粘膜の刺激を引き起こす
特殊消火剤	水噴霧で容器を冷却すること
消火を行う者のための特別な保護具	消火を行うときは、必要に応じて自給式呼吸装置を着用すること 指定された個人保護具を使用すること 火災および/または爆発時には、ヒュームを吸い込まないこと 消防士の特殊保護具

6. 漏出時の措置

個人に対する注意事項	指定された個人保護具を使用すること 人員を漏出/流出物から遠ざけ、風上に退避させること 人員を安全な区域に避難させること 風上に留まること 全ての点火源を排除すること（近接区域では禁煙とし、裸火、火花または火炎を排除する） 皮膚、眼との接触および蒸気の吸入を避けること 蒸気が発生した場合は、フィルター付きモデル呼吸器を着用すること 火災の場合：安全に対処できるなら漏洩を止めること 適切な保護衣を着用している場合を除き、損傷した容器や漏出物には触らないこと 特に閉め切った場所では十分な換気を確保すること 静電気に対する予防措置を講ずる
その他の情報	その区域を換気すること

環境に対する注意事項

安全に行えるなら、それ以上の漏出または漏洩を防ぐこと
製品が排水路に入らないようにすること
地上水または下水施設に流さないこと
内容物/容器を承認を受けている廃棄物処理施設に廃棄すること
環境への放出を避けること
漏出物を回収すること

封じ込め方法

安全に行えるなら、それ以上の漏出または漏洩を防ぐこと
粉末状の漏出物をプラスチックシートまたは防水シートで覆い、拡散を最小限にする
液体流出物のかかり前方に防液堤を築き、後で廃棄する

浄化方法

液体漏出物を砂、土またはその他の不燃性吸収物質で覆うこと
粉末状の漏出物をプラスチックシートまたは防水シートで覆い、拡散を最小限にする
ほうきで集め、シャベルで適切な容器に入れて廃棄すること
不活性吸収剤で吸収すること
防流堤を築いてせき止めること
回収して適切に表示された容器に移すこと
火花を発生させない工具を使用すること

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項

皮膚、眼または衣類との接触を避けること
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと
セクション8で推奨されている個人用保護具を着用すること
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと
局所排気換気装置を併用すること
静電気に対する予防措置を講ずる
換気のよい場所でのみ取り扱う
経口摂取すると、胃腸刺激、吐き気、嘔吐、および下痢を引き起こすおそれがある
取扱いの後にはしっかり手洗いとうがいをすること
第一類、第六類の危険物及び高圧ガスは接触回避する
この製品を拭き取ったウエス等は、速やかに焼却または廃棄する

保管

容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること
子供の手の届かない場所に保管する
適切な表示のある容器に保管すること
熱、火花、炎およびその他の点火源（例えば、点火バーナー、電気モーターおよび静電気）から遠ざけること
火花を発生させない工具および防爆型の器材を使用すること
酸化剤と混触危険性
消防法の基準にもとづき危険物倉庫に保管する
製品容器及び製品ドラム等にて保管する
紫外線や熱によって重合するので、密閉容器に入れて換気良好な冷暗所に一定の場所を定めて貯蔵する

混触危険物質

熱
強酸
酸化剤
アルカリ
光
過酸化物
ラジカル開始剤
第一類、第六類の危険物及び高圧ガスは接触回避する

8. ばく露防止及び保護措置

化学物質名	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
酸化チタン (IV)	0.3 mg/m ³ (Provisional)	-	TWA: 10 mg/m ³

技術的対策

特に閉め切った場所では十分な換気を確保すること
シャワー
洗眼場
換気システム

個人用保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、適切な呼吸保護具を着用する
マスク等の吸収缶の交換は破過時間に応じて、適宜又は定期的に行う

手の保護

保護手袋を着用すること

眼/顔面の保護

密封性の高い安全ゴーグル
顔面保護シールド
サイドシールド付き保護眼鏡（またはゴーグル）を着用すること

皮膚及び身体の保護

適切な保護衣
プラスチックまたはゴム製の手袋
適切な保護衣を着用する
エプロン
保護靴または長靴

一般的な衛生注意事項

取扱中は飲食禁止および禁煙
機器、作業区域および衣類を定期的クリーニングすることが推奨される
皮膚、眼または衣類との接触を避けること
取扱後は手をよく洗うこと
飲食物、動物用飼料から離して保管する

9. 物理的及び化学的性質

形状

液体

色

有色

臭い	特異臭	
特性	値	備考 ・ 引火点測定方式
pH	非該当	
融点/凝固点	データなし	
沸点/沸点範囲	データなし	情報なし
引火点	≥94℃	セタ密閉方式
蒸発速度	データなし	情報なし
爆発限界値		
爆発限界上限	データなし	
爆発限界下限	データなし	
蒸気圧	データなし	情報なし
蒸気密度	データなし	情報なし
比重	1.10-1.20	
溶解度		
水への溶解度	水に不溶	
有機溶剤に対する溶解性	可溶性：有機溶媒	
分配係数	データなし	情報なし
自然発火温度	データなし	情報なし
分解温度	データなし	情報なし

化学物質名	沸点 °C	密度	蒸気圧	蒸気密度	引火点	自然発火温度
アクリル酸ベンジル	228 °C 1013.25 hPa	1.0573 g/cm ³ at 20 °C	-	-	-	-
酸化チタン(IV)	2500 - 3000 °C	3.9 - 4.1 g/cm ³	-	-	-	-

10. 安定性及び反応性

反応性 / 安定性	通常の条件下で安定 重合が発生する可能性がある 熱すると爆発のおそれ
静電放電に対する感度	熱、火花、炎で引火することがある
避けるべき条件	静電気に対する予防措置を講ずる 極度の温度と直射日光 熱
混触危険物質	熱 強酸 酸化剤 アルカリ 光 過酸化物 ラジカル開始剤 第一類、第六類の危険物及び高圧ガスは接触回避する

危険有害な分解生成物

火に近づけると毒性ヒュームを放出するおそれがある

1 1. 有害性情報

反復して、または長期にわたり接触すると、非常に敏感な人はアレルギー性反応を生じるおそれがある
皮膚接触により感作を引き起こすことがある
吸入および皮膚接触により感作を引き起こすことがある

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

経口LD50

経皮LD50

吸入(気体) LC50

吸入(粉じん・ミスト) LC50

吸入(蒸気) LC50

混合物の 4.3パーセントは未知の毒性を持つ成分で構成されている

以下の値はGHS文書の第3.1章に基づいて算出された

ATEmix (経口) 1,526.70

ATEmix (皮膚) 5,882.40

毒性の数値尺度 - 成分情報

化学物質名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50	日本GHS分類 / その他	規則 (EC) No. 1272/2008[CLP]による分類 ANNEX VI Table3.1 / その他
アクリル酸ベンジル	-	-	-	Skin Irrit. 2 Eye Irrit. 2A Skin Sens. 1	Skin Irrit. 2 (H315) Eye Irrit. 2A (H319) Skin Sens. 1 (H317)
モルホリン, 4-(1-オキシ-2-プロペニル)-	-	-	-	-	Acute Tox. 4 (H302) Eye Dam. 1 (H318) Skin Sens. 1 (H317) STOT RE 2 (H373)
酸化チタン(IV)	> 10000 mg/kg (Rat)	-	-	Eye Irrit. 2B	Eye Irrit. 2B (H320)
2H-アゼピン-2-オン, 1-エテニルヘキサヒドロ-	-	-	-	Acute Tox. Oral 4 Eye Irrit. 2 Skin Sens. 1B STOT RE 1	Acute Tox. 4 (H302) Eye Irrit. 2 (H319) Skin Sens. 1B (H317) STOT RE 1 (H372)
ジフェニル-2,4,6-トリメチルベンゾイルホスフィン=オキシド	-	-	-	-	Repr. 2 (H361f) Repr. 2 (H361)
アクリル酸2-(2-エ	-	-	-	Skin Irrit. 2	Acute Tox. 4 (H302)

トキシエトキシ)エチル				Eye Irrit. 2A Skin Sens. 1 Acute Tox. Oral 4 Acute Tox. Der. 3 Skin Sens. 1A Aquatic Chronic 2	Acute Tox. 3 (H311) Skin Irrit. 2 (H315) Eye Irrit. 2 (H319) Skin Sens. 1A (H317) Aquatic Chronic 2 (H411)
-------------	--	--	--	---	--

GHS/CLP分類説明：

Expl. :爆発物, Flam. Gas :可燃性/引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む), Ox. Gas :支燃性/酸化性ガス, Press. Gas : 高压ガス, Flam. Liq. :引火性液体, Flam. Solid :可燃性固体, Self-react. :自己反応性化学品, Pyr. Liq. :自然発火性液体, Pyr. Sol. :自然発火性固体, Self-heat. :自己発熱性化学品, Water-react. :水反応可燃性化学品, Ox. Liq. :酸化性液体, Ox. Sol. :酸化性固体, Org. Perox. :有機過酸化物, Met. Corr. :金属腐食性物質, Acute Tox. Oral :急性毒性 - 経口, Acute Tox. Der. :急性毒性 - 経皮, Acute Tox. Inh. (Gas) :急性毒性 - 吸入 (気体), Acute Tox. Inh. (Vap) :急性毒性 - 吸入 (蒸気), Acute Tox. Inh. (D/M) :急性毒性 - 吸入 (粉塵およびミスト), Skin Corr. :皮膚腐食性, Skin Irrit. :皮膚刺激性, Eye Dam. :眼に対する重篤な損傷性, Eye Irrit. :眼刺激性, Resp. Sens. :呼吸器感作性, Skin Sens. :皮膚感作性, Muta. :生殖細胞変異原性, Carc. :発がん性, Repr. :生殖毒性, Lact. :授乳に対するまたは授乳を介した影響, STOT SE :特定標的臓器毒性 (単回ばく露), STOT RE :特定標的臓器毒性 (反復ばく露), Asp. Tox. :吸引性呼吸器有害性, Aquatic Acute :水生環境有害性 (急性), Aquatic Chronic :水生環境有害性 (慢性)

短期的及び長期的暴露による直後の影響と遅発性の影響及び慢性的影響

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 情報なし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 情報なし

感作性 情報なし

生殖細胞変異原性 情報なし

発がん性

化学物質名	日本産業衛生学会	IARC
酸化チタン(IV)	-	Group 2B

日本産業衛生学会説明： Group 1:ヒトに対して発がん性があると判断できる物質, Group 2A:ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質, Group 2B:ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

IARC説明： Group 1:ヒトに対して発がん性を示す, Group 2A:ヒトに対しておそらく発がん性を示す, Group 2B:ヒトに対して発がん性を示す可能性がある, Group 3:ヒトに対する発がん性について分類できない

生殖毒性 情報なし

特定標的臓器 - 単回暴露 情報なし

特定標的臓器 - 反復暴露 情報なし

吸引性呼吸器有害性 情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性

混合物の 96.5%は水生環境に対する危険有害性が未知の成分で構成されている

生物蓄積

情報なし

13. 廃棄上の注意

残留物/未使用製品からの廃棄物

環境中に放出しないこと
廃棄は、適用される地方、国、地域の法律および規制に従って行う必要がある

汚染された梱包

この容器を不適切に破棄したり、再利用することは、危険かつ不法である場合がある

その他の情報

ドラム缶に入れ、横転しても内容物が外部へ流出しないように密栓する

14. 輸送上の注意

容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込む
荷くずれの防止を確実に
容器を積み重ねる場合には高さ3m以下とする
第一類、第六類の危険物及び高圧ガス（一部を除く）とは混載できない
指定数量以上の製品を車両で運搬する場合は、当該車両に総務省令規定の標識を掲げ、適正な消火器を備える
消防法の危険等級に適合する運搬容器に収納して運搬する。（第1石油類・アルコール類は危険等級Ⅱ、第2石油類・第3石油類・第4石油類・動植物油類は危険等級Ⅲ）
光が不透過な運搬容器に収納する

UN番号

非該当

容器等級

非該当

ERG コード

133

(緊急時応急措置指針番号)

正式輸送品目名

非該当

IMDG (国際海上危険物規則)

規制対象外

UN番号

非該当

容器等級

非該当

ICAO (国際民間航空機関)

規制対象外

UN番号

非該当

容器等級

非該当

ADR (道路による危険物の国際輸送に関するヨーロッパ協定)

規制対象外

UN番号

非該当

容器等級

非該当

IATA (国際航空運送協会)

規制対象外

UN番号 非該当
容器等級 非該当

RID (鉄道による危険物の国際輸送に関する規則) 規制対象外

UN番号 非該当
容器等級 非該当

15. 適用法令

労働安全衛生法 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)

化学物質の審査及び製造との規制に関する法律 優先評価化学物質 (法第2条第5項)

化審法優先評価物質

規制区分名	法文物質名	政令番号	重量%
優先評価化学物質 (法第2条第5項)	ε-カプロラクタム	82	< 1

消防法危険物区分 危険物第4類引火性液体第3石油類非水溶性液体Ⅲ

廃棄物処理法

16. その他の情報

作成日 2019-01-25 (年-月-日)

改訂日 2019-08-02 (年-月-日)

主要参照文献とデータの出典 ケムアドバイザー社 LOLIデータベース

免責事項

このSDSは、JIS Z 7253:2019およびJIS Z 7252:2019 (日本) の要件に準拠しています。この化学物質等安全データシートに記載されている情報は、その発行日の時点において、我々の知識、情報および信念のおよぶ限りにおいて正確なものです。ここに提示されている情報は、安全取扱、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、および放出の指針とすることのみを目的としたものであり、保証または品質仕様と考えるべきものではありません。この情報は、指定された特定の物質にのみ関連するものであり、本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と併用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートの終端